



セミナー

# Proferamus jubilo 2024 第5回

2024年7月27日(土) 13:00より 15歳以下の方向け(どなたでもご参加頂けます。)  
公開コンサートのみのご参加も可能です。

プロフェラムス・ユビロはラテン語、並びにラテン語の直接の子孫であるフランス語、イタリア語等を通して西洋音楽の源流に少し触れてみようというものです。今回はグラン・モテのごく一部を小さなバロックオーケストラと共に歌ってみましょう。  
なお、下記パッセジャータは小学生さんあるいはまだ音楽の勉強を始めていない方にご参加いただける様、昨年始まったものです。(アレッシオ・シルヴェストリン氏の発案によるものです。)

- ☆ ラテン語は音節単位 (これはフランス語やイタリア語も同じです。) 基本的には一つの音節が一つの音符に対応します。
- ☆ ラテン語のアクセントは単語の後ろからある距離におかれます。具体的には後ろから2音節目、あるいは3音節目となります。
- ☆ 単語の頭ははっきりと始めましょう。文(フレーズ)の頭はもっとはっきりと始めましょう。

場所 聖グレゴリオの家 聖堂 (ロビーに受付を設けます。)  
宗教施設としての注意点がございます。これについては当日ご連絡します。

募集人数 15名(合唱/器楽) 15歳以下の方とご家族、お友達  
20名(公開コンサートからのご参加の方)  
参加費 ご一家で1000円 参加当日受付にてお支払いください。  
(すべて聖グレゴリオの家賛助会へ寄付されます。) 自由献金あり

チェンバロ、ヴァイオリン等でオーケストラにご参加頂ける方を募集中です。注意 Pitch; a=415Hz  
6月7月の土・日等に八王子にてオーケストラのパート練習をします。ご都合の合う日をご連絡ください。

◇当日のスケジュール (一部変更となる場合があります。公開コンサートは15時00分ごろスタートを予定しています。)

☆10:00よりオーケストラのリハーサルをします。☆



13:00 ガイダンス  
13:10 ラテン語 De profundis clamavi ad te, Domine, Domine, exaudi vocem meam.  
13:40 フランス語 Chants de Noël, 'Une jeune pucelle de noble cœur'  
14:10 合唱練習 これらラテン語とフランス語を読んで歌ってみましょう。

14:40 一休憩— オーケストラ準備



15:00 公開コンサート I  
Michel Richard de Lalande (1657-1726) De profundis clamavi, *excerpt*  
Chant de Noël 'Une jeune pucelle de noble cœur'  
15:30 公開コンサート II  
パッセジャータ、アンサンブル、チェンバロ独奏  
17:10までに終了 (掃除片付け、忘れ物チェック)  
(18時より vespers あり)



\* パッセジャータ  
小さなオーケストラでシャコンヌを演奏しますので、アレッシオ・シルヴェストリン氏の動きに合わせて手を大きく動かしてみましょう。親子でご参加下さい。

(なお、会場設営、お客様案内、後片付けも皆でしましょう。また、ゴミはなるべく出ないようにし、出たゴミはお持ち帰りください。)

☆Psalm 129 vulgate/130 新共同訳

De profundis clamāvī ad te, Domine.  
Domine, exaudi vōcem meam.

☆Chant de Noël

Une jeune pucelle de noble cœur,  
Priant en sa chambrette son Créateur.  
L'ange du Ciel descendant sur la terre  
Lui conta le mystère de notre Salvateur.

公開コンサートⅠ 曲目 一部不足するパートがあるかと思えます。 どうぞご了承ください。

Michel Richard de Lalande (1657 – 1726) De profundis clamavi, 上記 Psalm 129 vulgate/130 新共同訳の2文のみ  
Chant de Noël 'Une jeune pucelle de noble cœur' (チェンバロ伴奏)

公開コンサートⅡ 曲目

Jean-Baptist Lully (1632-1687) Ouverture *extrait*, Cadmus et Hermione,  
Jean-Baptist Lully Chaconne *extrait*, Amadis,  
Arcangelo Corelli (1653-1713) Ciaconna op.2-12  
Jean-Féry Rebel (1666 -1747) Chaconne, Le feu パッセジャータとして演奏

Antonio Vivaldi (1678 -1741) Concerto in g minor, RV 103 for recorder, oboe, bassoon  
Heinrich Ignaz Franz Biber (1644-1704) Rosary Sonata no.4  
オルガン独奏、チェンバロ独奏等

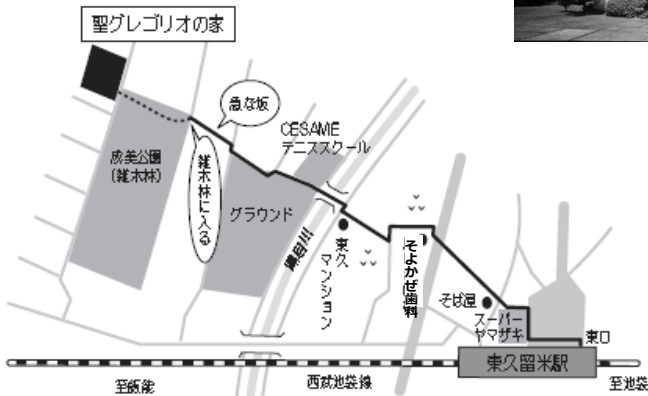
申し込み、お問合せ

聖グレゴリオの家事務所 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 2 丁目 7-12  
tel. 042-474-8915 <http://www.st-gregorio.or.jp>

内容については山野辺までお問い合わせください。

山野辺 暁彦(企画立案) 〒192-0914 八王子市片倉町 888-44 tel. 042-635-3784 [rpbjk640@yahoo.co.jp](mailto:rpbjk640@yahoo.co.jp)

お名前、学年、ご住所等連絡先を添えて6月末までにお申し込みください。(メール可)  
チェンバロ、弦楽器等でご参加の方は楽器名もお知らせください。 事前に資料等をお送りします。



池袋より西武池袋線「東久留米」駅下車  
東久留米駅「東口」より徒歩10分またはタクシー5分  
〒203-0004 東京都東久留米市氷川台2-7-12

聖グレゴリオの家は、1979 年9月に独立宗教学法人として故グレオン・ゴルドマン神父(フランシスコ会)によって設立され、祈り、研究、教育という 3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

聖グレゴリオの家賛助会

故グレオン・ゴルドマン神父によって創設された当研究所は、神父の母国ドイツや諸外国からの物心両面の支援に頼って参りました。しかしながらグレオン神父の帰天と援助をして下さった方の高齢化、世代交代に伴い、その支援は必然的に細りつつあります。海外の支援に頼るのではなく日本社会の中で聖グレゴリオの家の活動を支えていくために賛助会は 2009 年に発足しました。